

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~1日	7月 ~8日	7月 ~15日	7月 ~22日	7月 ~29日	8月 ~5日	8月 ~12日	8月 ~19日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	75	71	17	24	22	34	25	33	20 (21)	18
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	78	83	16	27	25	25	18	24	17 (22)	9
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	3	20	2	1	4	1	4	3	7	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	10	10	0	4	4	5	3	10	7 (8)	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	12	17	2	1	3	5	3	3	1	5
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	1	2	1	0	0	1	2	2	0	0
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	4	2	1	0	0	2	0	0	0	0

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第33週(8月13日~8月19日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6	3	2	1				
三類	0	発生なし	0							
四類	3	レジオネラ症	1					1		
		日本紅斑熱	2			1			1	
五類全数	15	アメーバ赤痢	1							1
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1						
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1
		梅毒	3			1		1		1
		破傷風	1			1				
百日咳	6			3			2		1	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北 部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第33週 8/13～8/19)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 梅毒

広島市では、2015年以降、梅毒の報告数が増加しており、今年の累計もすでに73件(男性46件、女性27件)となりました。

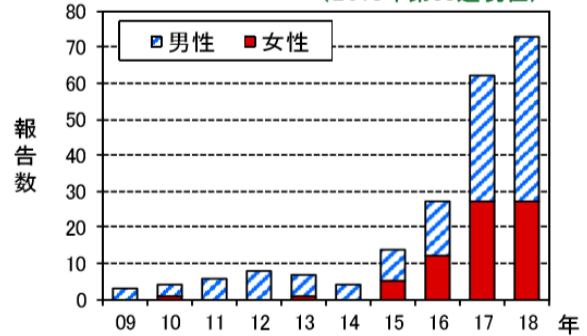
梅毒は、性行為で感染し、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や奇形が起こることがあります。

2. レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は25件となりました。

梅毒の年間報告数の推移

(2018年第33週現在)



第33週はお盆期間中のため、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	1	0.03	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.43	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.48		眼科	RSウイルス感染症	20	0.83	0.61	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.33	0.95			急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
	感染性胃腸炎	58	2.42	2.60		基幹	流行性角結膜炎	11	1.38	0.75	
	水痘	6	0.25	0.38			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	21	0.88	1.71			無菌性髄膜炎	-	-	0.23	
	伝染性紅斑	-	-	0.09			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.34	
	突発性発しん	5	0.21	0.34			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	11	0.46	0.72			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	25	男性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	男性(60歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	6	男性(30歳代)・感染者
5	梅毒	1	73	男性(50歳代)
5	百日咳	2	33	女性(10歳未満)、男性(10歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.1) 肺炎 結膜炎	1	女	2018/06/15	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス64型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載